

新型パッチ型ホルター心電図の使用経験および有用性

◎及部 遥果¹⁾、小島 光司¹⁾、林 美月¹⁾、井上 美奈¹⁾、高田 康信²⁾、左右田 昌彦¹⁾
JA 愛知厚生連 江南厚生病院 臨床検査室¹⁾、JA 愛知厚生連 江南厚生病院 循環器内科²⁾

【背景】

近年、24 時間以上の記録を行う長時間ホルター心電図検査の有用性が報告されている。当院では 2023 年 8 月に新型パッチ型心電図レコーダ（AT-patch：JLL 製）を導入した。使用経験及び不整脈診断における有用性について報告する。

【使用経験】

AT-patch（以下 AT-p）は単一誘導にて最大 7 日間の連続記録が可能であり、当院では原則 7 日間の装着とした。記録後は自施設で即日解析を行い、当日結果報告体制を敷いた。

【不整脈検出率】

2023 年 8 月から 11 月に行った長時間ホルター心電図検査 14 例を対象とし、検出された不整脈の種別及び検出率を調べた。平均装着期間 6.8 日において非持続性心室頻拍 4 例、上室性頻拍 7 例、心房細動 5 例、洞不全症候群 1 例を認めた。装着開始より 1 日間では上記の不整脈検出率は 35.7%であり、6.8 日間では 85.7%であった。

【まとめ】

AT-p はディスプレイレスであるため低コストで導入でき、機器管理が不要であることが利点であると考えられる。また、在庫数に応じた同日複数検査に対応でき、至急検査にも対応可能である。解析は PC へ専用ソフトを導入して自施設にて実施した。解析時間は 20 分程度を要するが自施設解析を行うことにより結果報告までの時間短縮と臨床の要望に応じた心電図波形の提示が可能である。一方、装着部位によって波高が減高することで解析に難渋することがある。波高が高くなる位置での装着部位を選択することが今後の課題である。

装着 6.8 日間における不整脈検出率は 85.7%であり、1 日間と比較して不整脈検出率は約 2.4 倍であった。AT-p による長時間ホルター心電図検査の不整脈検出率は既報と同程度であり、不整脈診断における有用性が確認できた。

連絡先：0587-51-3333 内線：1400